

新刊紹介

衣服と健康の科学

(社)日本家政学会被服衛生学部会 編
丸善, 定価 1,400 円+税, 2003 年 2 月発行

本書は(社)日本家政学会被服衛生学部会が編集し、人の健康に視点を置いた衣服の研究成果をまとめている。構成は、日常着へのとびら、特殊服へのとびら、ファッションへのとびら、健康へのとびらの4部15章編成で、さらに21のコラムがある。部会員36名がそれぞれ得意とする分野を記述している。1つ1つの章は短く、全体の文章もわかりやすく書かれているが、その内容は深い。例えば、柔らかい肌着とごわごわした肌着を着用した場合の生体への影響を自律神経と中枢神経の変化や唾液・尿の分析から検討した結果から解説し、柔らかい肌着の方が生体にとって良いと導き

出すなど、興味深い内容が最新の研究成果に基づいて書かれている。日常服だけでなく、宇宙服、農薬防護服、断熱服、帽子、靴など、身に着ける被服が幅広く取り上げられている。また、コラムでは院内感染を防ぐ白衣、ズボンのゴム紐が子どもの健康をおびやかす、などの興味深い話が記述されている。

表紙やコラムのイラストもかわいらしく親しみが持てる。また、A5判・127頁と持ち運びしやすいサイズで、学生が手にとり読みやすいように工夫されている。最近では、どんなに、良い内容の本であっても、文字が小さく、難しそうな印象の本は敬遠されがちであるので、この本のように、親しみやすい装丁で、読者が自然に衣服と健康について学べる本が(社)日本家政学会被服衛生学部会の手で完成したことは、たいへんすばらしいことだと思う。(猪又)

装いの心理

—服飾心理学へのプロムナード—

小林茂雄 著

アイ・ケイコーポレーション, 定価 1,200 円+税,
2003 年 3 月発行

服飾心理学は被服心理学、服装の社会心理学などとも呼ばれ衣服の分野では新しい学問であり、被服が人間の気持ちをあらわすことから、被服を切り口にした人間探求の研究分野である。本書は、実際に筆者が授業で教えている内容を中心にまとめたもので、服飾心理学とはどのような学問か基礎的に学びたい人や、授業にも使用できるように配慮されている。1章から9章までの本章と付録からなり、着装行動の要因を個人的要因から対人

的要因、集团的要因、文化的・社会的要因へとだんだん大きい次元の対象について記述する形式がとられ、最後に服飾心理学の活用の問題にふれている。筆者の長年にわたる研究事例が豊富に盛り込まれ、研究結果だけでなく付録には研究手法や研究事例に用いた評定尺度等が紹介されている。コラムや新聞記事なども適宜配され世相の理解や課題理解の助けになっている。

参考書も章ごとに豊富に挙げられており、大変、勉強しやすく配慮されている。心理学や哲学書は難解な言葉が使われやすいが本書は大変分かりやすくかかれており、授業に即使うことができる。被服心理学関連の科目を担当の先生、これから被服心理学を学びたい方、被服を切り口に人間の気持ちを捉えたいと思っている方々にぴったりの1冊である。(芦澤)